



# 半月ぶり教室にぎやか

## 弘前市立小中が授業再開

新型コロナウイルス感染拡大防止のため10月19日から臨時休校していた弘前市立小・中学校が2日から段階的に教育活動を再開した。同市在府町の朝陽小学校（全校児童153人）は多目的スペースなどを活用して席の間隔を空けながら授業を行い、児童は2週間ぶりの給食を味わった後、

多目的スペースを活用して席の間隔を空け、2週間ぶりの給食を味わう児童。弘前市の朝陽小学校

下校した。市立小・中学校は祝日明けの4日から通常授業に戻る。市教育委員会は10月18日夕、34小学校と16中学校の19～25日の臨時休校を発表。同22日に、11月1日までに延長した。休校期間中の給食提供はないが、各校の判断で出校日を設定している。各学年1クラスの朝陽小はこの日、多目的スペースや図書室、理科室、音楽室を活用し、教室よりも広い場所で学年ごとに分散して授業を行った。1年生は朝の会で、マスクを着ける、手洗い・うがいをする、密にならないようにするなどの約束事を確認。担任教諭が「久しぶりに体育をやります」と時間を説明すると、歓声が上がった。給食時は、昼の放送を聞きながら静かに箸を動かしていた。田澤暖悠さん（1年）は「久しぶりの給食でおつゆがおいしかったし（体育の）綱跳びも楽しかった」と笑顔だった。齋藤昭校長は「休校で授

業の遅れに目がいきがちだが、学校行事も大事にしたい。子どもたちに安心感を与えながら、最善の方法を考えていきたい」と話した。一方、市内のある中学校関係者は「ぎょうのところが落ち着いた様子だったが、生徒たちの身近なところでクラスター（感染者集団）が発生したので、不安も抱えているようだ」とし、「当面は勉強よりもまず生徒たちの気持ちを落ち着かせ、生活習慣を立て直すよう寄り添いたい」と語った。（太田佳希）